

# 日本音楽集団

PRO MUSICA NIPPONIA

第153回定期演奏会

秋の総合定期演奏会

The 153rd Regular Autumn Concert

1998年 **11月26日**[木]  
午後7時開演  
津田ホール

企画・構成：吉村七重

主催：日本音楽集団

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚3-17-1滝沢ビル302

T E L 03-3378-4741 F A X 03-3376-2033

助成：文化庁・日本芸術文化振興会

舞台芸術振興事業

(財)花王芸術・科学財団



Arts Plan 21



芸術文化振興基金

## プログラム

### 一、二つの舞曲 (1970年) 長沢勝俊作曲

Katsutoshi Nagasawa : Two Dances

[笛] 越智成人 [尺八] I 米澤浩 II 加藤秀和 III 添川浩史

[三味線] 杣家七三 [琵琶] 石田さえ

[箏] I 桜井智永・桐岡知代 II 城ヶ崎美保・田村法子

[二十絃箏] 島崎春美・中垣雅葉 [十七絃] 大畠菜穂子・丸岡映美

[打楽器] 尾崎太一・望月太喜之丞・立枝恵子

### 二、双魚譜 (そうぎょふ) ~尺八と二十絃箏のための四つの古典的寓話抄~ (1986年) 吉松 隆作曲

Takashi Yoshimatsu : Soh-gyo-fu ~Four Episodes for Shakuhachi and 20-string Koto

[尺八] 三橋貴風 [二十絃箏] 吉村七重

### 三、遊月記 (委嘱・初演) 菅野由弘作曲

Yoshihiro Kannno : A Lunar Note

[笛] 西川浩平・越智成人 [尺八] 三橋貴風・藤崎重康・米澤浩

[細棹三味線] 杣家七三 [太棹三味線] 田中悠美子 [琵琶] 田原順子

[二十絃箏] I 熊沢栄利子・早川智子 II 桜井智永・嶋崎光代

[十七絃] 宮越圭子・中垣雅葉

[打楽器] 黒坂昇・望月太喜之丞

[指揮] 田村拓男

- 休憩 -

### 四、豊宇多楽 (とよのうたあかり) ~箏・三絃・琵琶・笙・打楽器のための~ (1997年) 猿谷紀郎作曲

Toshiro Saruya : Toyo-no-uta-akari ~for the Japanese traditional instruments

[笙] 東野珠実 (助演)

[三味線] 篠田司郎 [琵琶] 石田さえ [箏] 宮越圭子

[打楽器] 高橋明邦

### 五、鄧曲「鬢多々良」(えいきょく・びんたたら) (1973年) 伊福部昭作曲

Akira Ifukube : Bintatara per 16 strumenti di Giappone

[篠笛] I 西川浩平 II 藤崎重康 [竜笛] 西原貴子 [能管] 越智成人

[簫築] 西原祐二 [笙] 東野珠実 (助演)

[筑前琵琶] 田原順子 [薩摩琵琶] 石田さえ

[箏] I 吉村七重 II 熊沢栄利子 III 桜井智永 [十七絃] 宮越圭子

[打楽器] 尾崎太一・黒坂昇・望月太喜之丞

[楽太鼓・指揮] 田村拓男

## 二つの舞曲

この曲は1970年10月19日、日本音楽集団第12回定期演奏会で初演されました。当時着実に力をつけていた集団のアンサンブル。この迫力ある魅力的合奏団に、新しい息吹を与えようと、開発されて間もない二十絃箏を加え、更に尺八・打楽器等をふやし、計13名という編成により作曲されました。

曲は「舞」と「踊」よりなる二つの舞踊曲であり、舞いは「まわる」、踊りは「跳躍」という意味をもたせています。いずれにせよ民族芸能の中にある民衆の持つたくましいエネルギーを表現したいと希望たものです。

それから27年、集団は常に時代をしっかりと見すえながら新しいものへのチャレンジを行ってきました。本日の演奏は若いものからベテランまでが初心にもどり一体となり、現代に生きる音楽の姿を皆様に御披露できればと願っております。

(長沢勝俊)

### ◆長沢勝俊◆

1923年東京生れ。作曲を清瀬保二に師事。64年同人14名と日本音楽集団を結成。91年まで団代表をつとめ、在任中年5回の定期演奏会をはじめ、20回余にわたる海外公演などの推進役をつとめた。主要作品に〈子供のための組曲〉〈組曲「人形風土記」〉〈萌春〉他に市川猿之助のスーパー歌舞伎〈ヤマトタケル〉、人形劇団ブーク等の音楽を担当。現在日本音楽集団名誉代表。

## 双魚譜～尺八と二十絃箏のための四つの古典的寓話抄～

「双魚」は魚座の正称「双魚宮」から尺八と二十絃箏が並び対峙する様を二匹の魚に見たてての命名。曲は、1、序の魚、2、破の魚、3、綾の魚、4、急の魚の四つの部分より成る。川魚の夢に寄せる四幅の連画であると共に、疑似二重奏ソナタの形態をも兼備している〔つもりだが、どうだろうか?〕

花札日本の世界でなく、アジアの一地域としてのローカル性を持ったひとつの無名なる音楽〔フォークロア〕への指向。それは現代日本人である「私」の多面制と自由さ〔無国籍性?〕のつたなき証明、とも言えるかも知れない。

三橋貴風、吉村七重両氏の委嘱により1986年春より初夏にかけて作曲。同年7月初演。(吉松隆)

### ◆吉松隆◆

1953年東京生れ。慶應義塾大学工学部中退。「現代音楽」の非音楽的な傾向に反発した「世紀末抒情主義」を主唱し、数々の作品を発表。現在、英国CHANDOSレコードで全オーケストラ作品のCD化が進行中。評論・エッセイなどの執筆活動も行っている。

## 遊月記

月に叢雲、花に風。浮世絵に描かれた見事な月も、アポロ11号が月に到達した時代に我々が眺めている月も、月は月。月面の写真は荒涼たる風景、望遠鏡で見るとクレーターの山だが、遠くから見ればやはり「うさぎの餅つき」だ。

神秘的な、そして狂気の月。人間は、その美しさの中に静かに秘められた何を見つめてきたのだろうか。不思議な伝説に彩られ、潮の満ち干きも含めた森羅万象、人体にも影響を及ぼす月。しかしそれは同時に、盆のようなまん丸いお月様の中で「うさぎが餅をついている」と空想に夢を馳せ、楽しいお月見の対象でもある。満月の晩に、すすきと团子と大きなお月様。その月を手毬にして遊ぼう、そんなことを考えながら、作曲の筆を進めた。

日本の楽器は、どちらかといえば強い表現が得意であり、一つ一つの音に重い意味が込められている。日本音楽集団のメンバーも、個々人の演奏はそうだ。が、これが集まると、いい意味で「あっけらかん」とした表情が生まれる。今回のプロデューサー、吉村七重さんから「集団の音の意味を見つめ直す作品を」との依頼を頂いた私の一つの答えは「輝かしいあっけらかん」である。上弦の月の晩に、私と、集団のメンバーと、聴きに来て下さった皆さんとともに、月と戯れたい。

(菅野由弘)

### ◆菅野由弘◆

1953年東京生れ。東京藝術大学大学院作曲科修了。95年国立劇場委嘱の雅楽、聲明、古代楽器のための〈西行一光の道〉、96年聲明とパルサー波によるコンピュータ音楽〈虚空星響〉などを作曲。NHK大河ドラマ「炎立つ」などの音楽も手がける。

## 豊宇多楽～箏・三絃・琵琶・笙・打楽器のための～

1997年国立劇場から邦楽作品の委嘱を受けた私は、古代の人々が聴いた音に思いを馳せていました。古代に鳴り響いた音は、時空を超えて私たち日本人の心にしみこんでいるのではないかと思ったのです。私はその音をとらえ、新しい時代につながる作品を作ろうと試みました。題名は、「古事記」にある新年を祝い酒をすすめる歌「豊楽（とよのあかり）」にあやかっています。

（猿谷紀郎・初演プログラムより抜粋）

### ◆猿谷紀郎◆

1960年東京生れ。慶應義塾大学法学部卒業後、ジュリアード音楽院作曲科に留学し、88年同大学院を名誉奨学生として卒業。93年芥川作曲賞、出光音楽賞、95年尾高賞受賞。97年秋には八ヶ岳高原音楽祭において、音楽監督をつとめた。

## 郢曲「鬢多々良」

この作品は1972年に文化庁の委嘱により作曲、73年日本音楽集団第20回定期演奏会で初演された。作曲者はこの作品について次のように述べている。「郢曲とは、平安中期にわが国に興った音楽の一形態であるが、様式としては、宮廷社寺樂と庶民の俗樂との中間に位していた。したがって、旋法なども、わが国と唐・天竺などとの混淆にあったと考えられている。鬢多々良とは、比牟多々良などとも記されるが、詠唱を伴ったかなりくつろいだ舞い楽で、あまり厳格に定った振りはなかったらしく、各自が自由に舞い、やがて乱舞に至るのが常であったとされる。」（初演プログラムより引用）

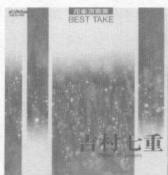
第1部分は、絃楽器群が3つの旋律を綾なして反復する上に、管楽器群の伸びやかな旋律が奏でられる。第2部分は、各楽器が順次現われ自由に旋律を歌う。そして第3部分は再現部であり、全楽器の大合奏となって締め括られる。

### ◆伊福部昭◆

1914年北海道生れ。北海道帝国大学林学科卒業。独学で作曲を学ぶ。1935年〈日本狂詩曲〉でチェレブニン賞を受賞。38年〈ピアノ組曲〉がヴェネチア国際現代音楽祭に入選。80年紫綬褒章を受賞。室内楽曲、歌曲から映画音楽、バレエ曲などを含む管弦楽曲と、その作品は多い。

現代の日本音楽をリードする演奏家の話題盤！

## 邦楽演奏家 BEST TAKE シリーズ



吉村七重

箏譚詩集 第二集<春>  
箏双重  
箏譚詩集 第三集<夏>

◆VZCG-139



三橋貴風

越後明暗寺所傳「三谷」  
鳳將雛抄  
霜夜の砧  
樹冠  
悲曲変容

◆VZCG-121

西潟昭子 VZCG-65  
西潟昭子Ⅱ VZCG-66  
西潟昭子Ⅲ VZCG-67  
沢井忠夫 VZCG-120  
山本邦山 VZCG-147  
石垣征山 VZCG-148

12cm CD 税込定価 ¥3150

（財）ピクター伝統文化振興財団 〒151-0051 渋谷区千駄ヶ谷1-14-5 千駄ヶ谷インテスピル7F ☎03-5770-1469 FAX 03-5410-7138

## ◆ 尺八奏者・愛好家必携のビデオ 奥州系 尺八本曲の探求

### 1. 小野寺源吉と津軽



奥州系尺八曲の特徴

小野寺源吉の話  
(話・神田可遊)

根笛派錦風流 流し鈴慕（三橋貴風）  
松巖軒所傳 鈴慕（善養寺惠介）  
布袋軒所傳 鶴之巣籠（郡川直樹）

### 2. 神保政之輔と越後



奥州系尺八楽器の特徴

神保政之輔の話  
(話・神田可遊)

越後明暗寺所傳 三谷（善養寺惠介）  
神保政之輔傳 奥州三谷（郡川直樹）  
蓮芳軒・喜善軒所傳 鶴之巣籠（三橋貴風）

各巻 45分税抜4800円 制作・発売：音楽之友社 03-3235-2111

上野晃

日本音楽集団は、今秋も総合定期演奏会を迎える。この総合定期演奏会という呼称が生まれたのは、1979年の創立十五周年の定期演奏会第50回記念のときだった。前年に音楽之友社賞第二回を受賞した。そこからかぞえても、二十年になる。いまでは、黙っていても春と秋の総合定期演奏会が来るようと思われてしまいがちなのだが、私には、その年の楽季を実感で知らせ、日本音楽集団の実在を本当に確認出来るイベントとして、これがある。

## 日本音楽集団の現在形



創立からすでに三十五年の歴程は、邦楽器オーケストラとしての機能をさまざまな形で見せてきたが、そればかりでなく、現代邦楽の中心広場のように、ここから羽搏いたり、ここを通過していった演奏家、作曲家はもうかなりの数にのぼる。個か群か、個と群のリレーションについて、いつも課題を背負ってきた集団だが、強靭な縦系列の邦楽社会にて、流派を超えた和楽器合奏組織が運営されてきた事実は、やはり日本の音楽史に大きく刻まれる。しかしながら、日本の伝統音楽は、家元制度によって現在あることを、忘れてはならない。古典邦楽と現代邦楽は、絢い交ぜにされてはならないが、古典と現代が異文化に分けられてしまっては、元も子もなくす。思い返せば、邦楽という言葉を日本音楽に更新したのは、日本音楽集団であった。

個が、古典でもあり、邦楽でもあり。群が、現代でもあり、日本音楽でもあり。とするならば、個と群の組成をさらに拡大したのが、オーケストラ・アジアといえるかも知れない。ここではもっと、ドラスティクな絢い交ぜが起きている。

今度の日本音楽集団のプログラムには、何かいつもと違ったパラダイムを感じる。それは、1970年代から今日までという約三十年の広角度の視野のせいだろうか。長沢勝俊《二つの舞曲》は、まだメンバーが十数名の若い日本音楽集団で初演されたが、なぜかこの曲のみ山田一雄の客演指揮で、個性的なドライヴが今も鮮やかに思い出される。80年代を代表する現代邦楽デュオの吉松隆《双魚譜》は、もういく度となく三橋貴風と吉村七重のコンビで再演を重ね、二人のテーマ音楽になっている。委嘱新作《遊月記》の菅野由弘は、集団初体験でいかなる現代の月をうたうのだろう。やはり初登場の猿谷紀郎だが、昨年国立劇場で初演の《豊宇多樂》は、神話的な音世界を雅楽的テクスチャで展開する。そして最後、72年に伊福部昭が邦楽器合奏のために初めて書いた《郢曲「鬢多々良」》も、宮中の節会における音楽が素材となって、雅楽や舞楽のイメージをさらに高揚させる。

前々回には、一人の作曲家に企画構成の全権を委ねる方策が採られた。今回は、メンバーの一人でもある演奏家に、プロデュースが当たられた。吉村七重のコンセプトから、いかなる個と群が聴こえてくるだろうか。

# 中近東公演を終えて

(日本音楽集団第23次海外公演)

宮越圭子

1998年10月8日、国際交流基金派遣課の主催による二週間の中近東の旅はトルコから始まった。

10日のアンカラ公演は人呼んで“怒濤のアンカラ公演”。宿泊地のイスタンブールから飛行機でアンカラに着いたら待っていたのは小さなバス一台のみ、人間が乗るだけで精一杯。9個のジュラルミンを前に我々は呆然とするばかり。やがて大型のバスに変更してくれたものの、バスの腹に全部は入りきらず、トラック一台を借りる話が決まるまでの一時間、果たして公演に間に合うのか不安になる。その夜はトルコ対ドイツのサッカーの試合と重なり、男性客が少なかったが、それでも一回目の公演としては内容も良く、きっちりと決まりますますの仕上り。終演後、またジュラルミンに梱包して空港に運んだが、ハーア。このく日帰リツアーハーは平均年齢46歳にしてはちょっとしんどかった。しかも帰りの最終便は小型飛行機で、トルコ航空が荷物は入らないと言い出す始末。30分以上の押し問答の末、無理に乗せたが、とがったジュラルミンが楽器係の古川氏の手にさり、流血の惨事に。

翌日の公演は無事に済み、次のイスタンブール工科大芸術科でも、狭いホールに100人以上がひしめきあい、楽器に触るコーナーでも各楽器に人だかりができる程に関心を呼ぶ。その時皆で「こちらの民族楽器も聴きたいねエ、お互いにワークショップができれば、その方が交流になるのにねエ」などと話したが、このことは後にイランで実現することになった。

次なる国のオマーンは完璧な受け入れ態勢で何の問題もなかった。一つだけ、こちらの習慣で途中休憩を入れるとお客様が帰ってしまうとか。おかげで後半は客席がガラガラになってしまったのにはがっかりした。知っていれば休憩はカットしたのに……、臨機応変さが必要と痛感した。

最終地はテヘラン。女性陣は飛行機を降りた時から、お国柄、頭へかぶるスカーフとコートを食事時も（勿論スカーフは着物の時も）着けなくてはならず、気の減入る4日間を過ごした。19日の公演は熱狂的な拍手で迎えられ、くわを一番理解してもらえた感じで我々も特に良いステージを作れた。そして20日の芸術大学でのワークショップでは空いた時間に現地の笛の奏者にイラン音階を教わったことから発展し、開始前に民族楽器を見せてもらったり、最後にイランの音楽を笛の奏者と一緒に演奏したりと、ようやく交流らしい交流ができた。その夜の公演では、よく知られたイランの曲の楽譜を急遽手配し、アンコールに昼間の笛の人にも入ってもらって演奏したところ大いに盛上がった。220人の定員に400人入ったその日は、我々のツアーハーの最終公演でもあったが、会場も割れんばかりの拍手で幕を閉じられたのはたいへん嬉しかった。



10/20、テヘランの会場の前庭で。イランに入ってから、帰りの飛行機の中も北京まで、女性はこの姿でした。

## 【公演日・場所】

1998年

10月10日(土) トルコーアンカラ公演 土日基金文化センター

11日(日) イスタンブール公演 アタチュルク文化センター

12日(月) イスタンブール・ワークショップ イスタンブール工科大学

14日(水) オマーンマスカット公演 アルブスタンホテル・オティアリム

15日(木) マスカット公演 スルタンカブーススポーツコンプレックス

19日(月) イランテヘラン公演 ニアヴァラン文化センターホール

20日(火) テヘラン・ワークショップ 芸術大学ファラビーホール

テヘラン公演 ニアヴァラン文化センターホール

## 【プログラム】

### 公演プログラム

まつり／五段砧／鶴の巣籠り／華やぎ（三木稔作曲）／序破急／キビタキの森（宮田耕八郎）／寿式三番叟～狐火～／幕間三重～獅子狂い五段／チャレンジコーナー（楽器に触れてみよう）／わ（三木稔）

## ワークショッププログラム

まつり／狐火／獅子狂い五段／追分、本曲など／乱れ／四つの前奏曲（長沢勝俊）／華やぎ／チャレンジコーナー（楽器に触れてみよう）

\*曲目は会場の状況などにより一部変更されました。

## 【参加メンバー】

笛＝藤崎重康

尺八＝宮田耕八郎

三味線＝田中悠美子・工藤哲子

箏＝宮越圭子・大畠菜穂子

打楽器＝尾崎太一・仙堂新太郎

舞台スタッフ＝古川尚人（アイエムエス）

## 【主催】国際交流基金派遣課

## 日本音楽集団 最近のおもな活動（1998年5月より）

5月24日(日)	邦楽のしらべ「日本音楽集団邦楽コンサート」	成東町文化会館
5月26日(火)	横浜市立田奈小学校音楽鑑賞会	
5月29日(金)	平成10年度「芸術祭典・京」	京都コンサートホール（小）
6月 6日(土)	日本音楽集団演奏会	新潟市音楽文化会館
6月10日(水)	聖徳大学音楽鑑賞会「竹取物語」	聖徳大学川並講堂
6月12日(金)	福井県内学校公演	敦賀市民文化センター・小浜市民文化会館
6月17日(水)	島根県三刀屋中学校音楽鑑賞会	
6月18日(木)	松江市立湖南中学校・開星高等学校音楽鑑賞会	
6月19日(金)	第4回出雲総合芸術文化祭「日本音楽集団&青山恵子演奏会」出雲市民会館大ホール	
6月21日(日)	入間市公演「竹取物語」	入間市市民会館
6月22日(月)	葛飾区立原田小学校音楽鑑賞会	
6月23日(火)	'98大田音楽フェスティバル 第一部：まつり／第二部：糸・華やかに	大田区民プラザ大ホール
<b>7月 8日(水)</b>	<b>第152回定期演奏会～真夏の夜へのプロローグ～</b>	<b>津田ホール</b>
7月22日(水)	青音協20周年記念「子どものための舞台芸術フェスティバル」	ティアラこうとう
8月 8日(土)	府中商工まつり	府中フォーリス前広場
8月25日(火)～27日(木)	長野県木曽郡鑑賞音楽会	
9月26日(土)	日本の音色でつづる名曲コンサート	滋賀県立文化産業交流会館
10月 8日(木)	藤枝南女子高等学校平成10年度音楽鑑賞会	
10月 8日(木)～22日(木)	第23次海外公演《中近東公演》	(トルコ、オマーン、イラン)
10月31日(土)	第17回松山市民文化祭芸術祭～海～	松山市民会館大ホール
11月 1日(日)	姫路文化振興財団設立10周年記念 「日本音楽集団と地元学生たちによる「新八千代獅子と竹取物語」」	姫路キャスパホール
11月 1日(日)	'98たけはらフェスティバル	竹原市総合公園バンブー・ジョイ・ハイランド
11月12日(木)	甲斐説宗の音楽第3夜 - 「傑作選蘇演」	北とびあ・つつじホール
11月13日(金)	アトリオンおしゃべり音楽会シリーズ「日本音楽集団の邦楽！」	秋田アトリオン音楽ホール
11月14日(土)	日本音楽の楽しみ（ワークショップ&オステージコンサート）	越谷サンシティホール
11月17日(火)	聖徳学園中学高等学校芸術鑑賞会	武蔵野市民文化会館
<b>11月26日(木)</b>	<b>第153回定期演奏会～秋の総合定期演奏会（企画・構成：吉村七重）</b>	<b>津田ホール</b>

## 日本音楽集団今後の予定とおもな演奏曲目

12月19日(土) <b>1999年</b>	高岡おやこ劇場「ごんぎつね」	富山県高岡文化ホール
1月 5日(火)	世田谷区新年のつどい	世田谷区民会館
1月10日(日)	西条公演「竹取物語」	西条市総合文化会館
<b>1月26日(火)</b>	<b>第154回定期演奏会～新春の奏で</b>	<b>津田ホール</b>
2月 6日(土)～20日(土)	第24次海外公演《アメリカ・カナダ公演》 9日(火)コロンバス、10日(水)ニューヨーク、12日(金)シアトル、13日(土)パロ・アルト、 14日(日)トーランス、16日(火)アイオワ・シティ、19日(金)トロント等の予定 (<コンチェルト・レクイエム>を三木稔が集団とマリンバのために改訂した<レクイエム'99>の世界初演が、スコットランドのマリンバニスト、エヴェリン・グリニー、また、トロントでは名倉誠人との共演で予定されている。)	
3月 7日(日)	岩国公演「竹取物語」	シンフォニア岩国
5月16日(日)	群馬県吉岡町「竹取物語」公演	吉岡町文化センター
<b>5月27日(木)</b>	<b>日本音楽集団第155回定期演奏会～春の総合定期</b>	<b>津田ホール</b>

お知らせ

1999年度

# 日本音楽集団 団員募集

オーディション：1999年3月24日（水）

詳細は事務局へお問い合わせ下さい。



アイ・エム・エス ● 楽器リース ● 保管 ● 移動 ● ステージ・スタッフ派遣

〒167-0043 東京都杉並区上荻2-3-4  
ゆうでんビル  
PHONE.03-3379-2292  
FAX. 03-3397-7728

## 箏

## 二十絃箏

箏を愛するすべての人の繊細な感情を忠実に音に表現する  
ために、楽器の本質を追求した箏

日本音楽集団推薦

# 琴光堂和樂器店

東京都目黒区碑文谷2-19-15 TEL(3792)8481 FAX(3792)8437